

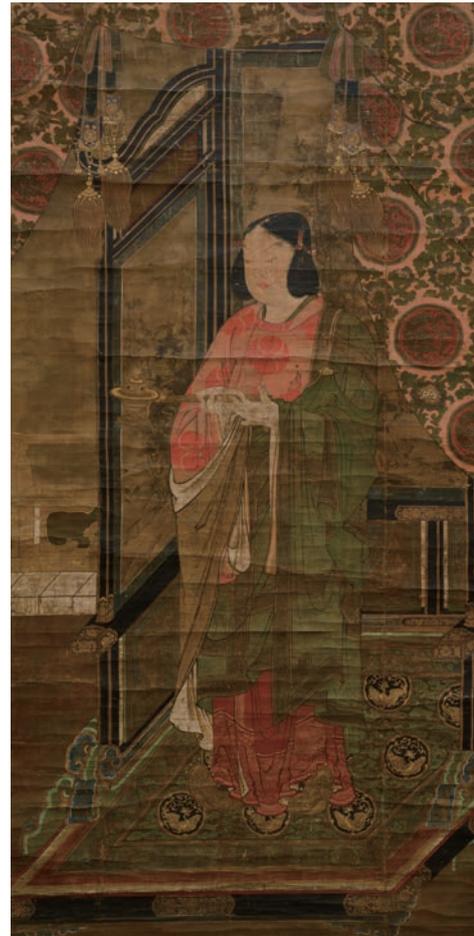
絹本着色聖徳太子童形像保存修理事業

宗教法人弘川寺 代表役員 高志 慈海

表具全図

本紙全図

<修復前>



絹本着色聖徳太子童形像

修復前

(本紙のみ)
縦 143.7cm × 横 70.5cm
(表装込み)
縦 237.3cm × 横 95.4cm

修復後

(本紙のみ)
縦 144.0cm × 横 70.5cm
(表装込み)
縦 228.6cm × 横 90.7cm

大阪府

解説

弘川寺所蔵聖徳太子童形像は、鎌倉～南北朝時代に制作された同主題作品中でも最も大きな画面に堂々とかつ詳細に太子の姿を描く、代表的作品である。打ち込みの強い墨線による衣文や、暗めの黄土色系下地の上に輪郭を残して塗り重ねた金泥により立体感を創出した金属の表現などから、南北朝時代（14世紀）の制作と考えられる。

袈裟をつけ柄香炉を執る立ち姿の太子像は鎌倉時代初めに成立したと考えられ、香雪美術館本などの類例があり祖本が存在していたようである。本図は諸本と同様に転写を経た、比較的初期の段階の作であるが、香雪美術館本と同じく詳細な環境描写（幔幕・背屏・框座・褥等）を伴い、この種の太子像が当初意図していたことを考察する上で貴重な作品である。また背屏に水墨山水人物画が描かれており、初期水墨画の例としても注目される。

<修復後>

表具全図



本紙全図



修復業者

株式会社 修美

修復内容

弘川寺所蔵聖徳太子童形像は、本紙・表装とも経年劣化による傷みが散見され、絵具層の剥離剥落や、本紙全体に著しい横折れと亀裂が見られることから本格的な解体修理を行う必要があった。また、緑青や群青で彩色された箇所では銅の酸化や劣化が進行し、本紙や表装に変色・硬化が見られ、それが旧総裏紙に浸透していた。修理としては、クリーニングを施し、乾式肌上法により旧肌裏紙等を除去した後、欠失箇所の補修、折れ伏せ等を行い、新調した肌裏紙等を打ち、新調した表装裂等を本紙に付け回して掛軸装に仕立てた。桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、中性紙による保存箱を外箱として旧軸や旧表具等を一括収納した。

特記事項として、旧肌裏紙は太子の顔部分に明るい色調、それ以外は暗い色調に打ち分けられていたことが判明した。修復に際しては肌裏紙を新調するため、色調の調整には注意を払った。

保存修理報告書

弘川寺様ご所蔵
絹本着色 聖徳太子童形像 一幅

株式会社
修美





本
文

一. 修理文化財の名称等

1. 作品名：絹本着色 聖徳太子童形像 一幅
2. 所有者：大阪府南河内郡河南町大字弘川四三番地甲
住所：宗教法人 弘川寺

二. 工期期間

二ヶ年継続事業
自：令和四年一〇月 一日
至：令和六年 九月三〇日

三. 施工者等

施工者：株式会社 修美 代表取締役 宇都宮正紀
 施工場所：京都市東山区茶屋町五二七
 京都国立博物館 文化財保存修理所 第二修理室
 担当者：四本広樹

四. 修理文化財の構造等

1. 寸法(単位：cm)

表具	本紙	縦	修理前
		横	
		縦	修理後
		横	

2. 本紙構造

料絹組成：絹（写真1）

経 一四中七〇枚二ツ入
緯 二一中二本二二〇横

～当社調べ～



写真1 料絹組成顕微鏡写真（100倍）
絹の組成が観察できる。

3. 形式・仕様等

	修理前											修理後											
保 存 箱	太 卷 添 軸	折 れ 伏 せ	補 修 絹	総 裏 紙	中 裏 紙	増 裏 紙	肌 裏 紙	軸 首	総 縁	中 廻 ・ 風 帯	一 文 字 ・ 風 帯	形 式											
桐屋郎箱	—	楮紙	様々な補修絹	楮紙	楮紙	楮紙	楮紙	象牙頭切軸	薄茶地唐花文綴子	浅葱地丸龍宝尽文金襴	茶地鳳凰文金襴	一文字付仏表具装											
桐屋郎箱（京都・小島製） 中性紙保存箱（京都・大入製） （写真2）	桐太卷添軸（京都・小島製） （写真2）	楮紙（美濃・鈴木製（美濃紙））	電子線劣化絹 経：一四中七〇枚二ツ入 緯：二一中二本二〇〇横	楮紙（吉野・福西製（宇陀紙））	楮紙（吉野・上窪製（美栖紙））	楮紙（吉野・上窪製（美栖紙））	楮紙（美濃・加納製（美濃紙））	再使用	金茶地古代枝花文綾	浅葱地丸龍宝尽文金襴（新調）	—	仏表具装											

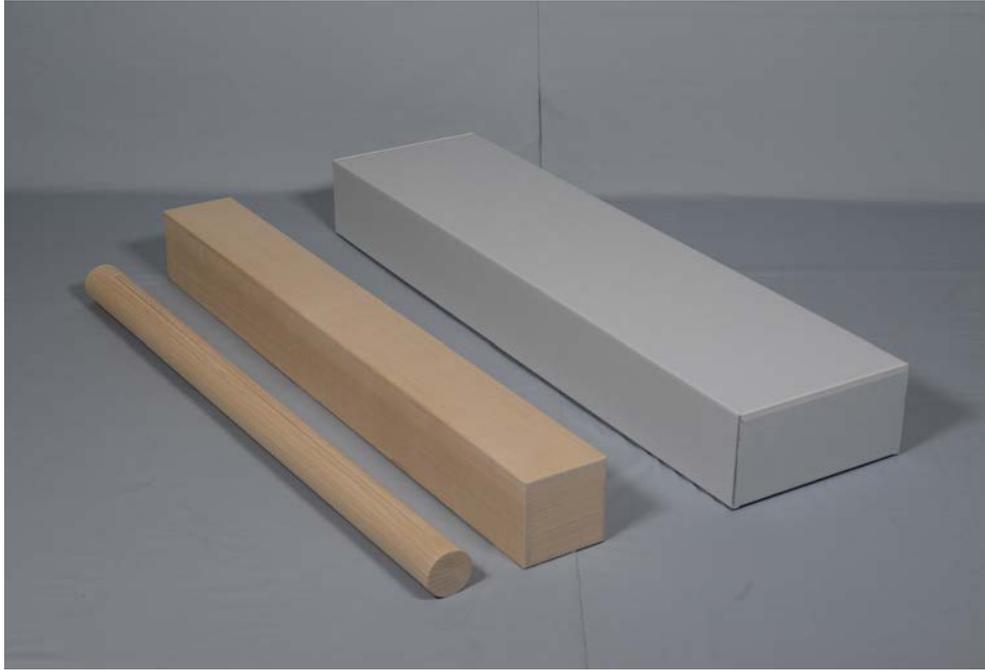


写真2 - 1 太巻添軸、保存箱
新調した太巻添軸、桐屋郎箱、中性紙保存箱

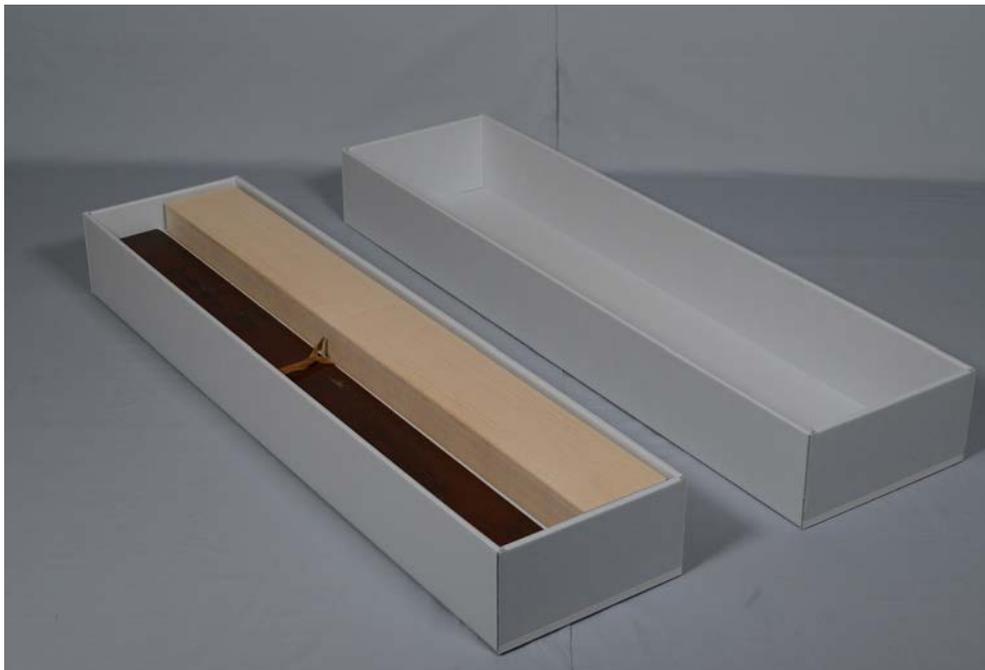


写真2 - 2 保存
修理後は中性紙保存箱に旧保存箱と新調した桐屋郎箱を並列して納入した。

五. 修理前の状況

【本紙】

1. 絵具層は経年による膠着力の低下により剥離剥落が進行している。(写真3・4)
2. 本紙全体に著しい横折れが発生している。
また、折れ山部分は亀裂へと進行している。(写真5・6)
3. 経年により糊の接着力が低下し、本紙料絹と旧肌裏紙の間で糊浮きが生じている。(写真7・8)
また、本紙料絹には欠失が生じている。(写真9・10)
4. 過去の修理において補絹の施されている箇所がある。(写真11・12)
欠失箇所の形に合わせた補絹ではないため、隙間が生じている。
5. 旧補絹には描き起こし、本紙にまで及ぶも補彩が施されている(オーバーペイント)箇所がある。(写真13・14)
6. 本紙の背景部分には表現とは異なる黒色の斑点が見られる。(写真15・16)
7. お顔部分以外は暗い色調の肌裏紙にて裏打ちが施されている。
(参考：特記事項1)
8. 本紙には経年による汚れが付着している。

【表装】

1. 表装裂は下軸の根元部分で亀裂が生じている。(写真17・18)
また、虫損による欠失や糸の「ほつれ」が発生している箇所がある。(写真19・20)
2. 緑青や群青が使用されている箇所では、緑青や群青の銅の酸化や劣化が進行し、総裏紙が変色している。(写真21・22)
3. 経年による汚れが付着している。



写真3 デイテール（修理前）〔斜光写真〕
絵具層は剥離剥落が進行している。



写真4 デイテール（修理後）〔斜光写真〕
剥落の恐れのある絵具層に膠水溶液を塗布含浸し、剥落止めを施した。



写真5 ディテール（修理前）〔斜光写真〕
本紙全体に著しい横折れが生じている。

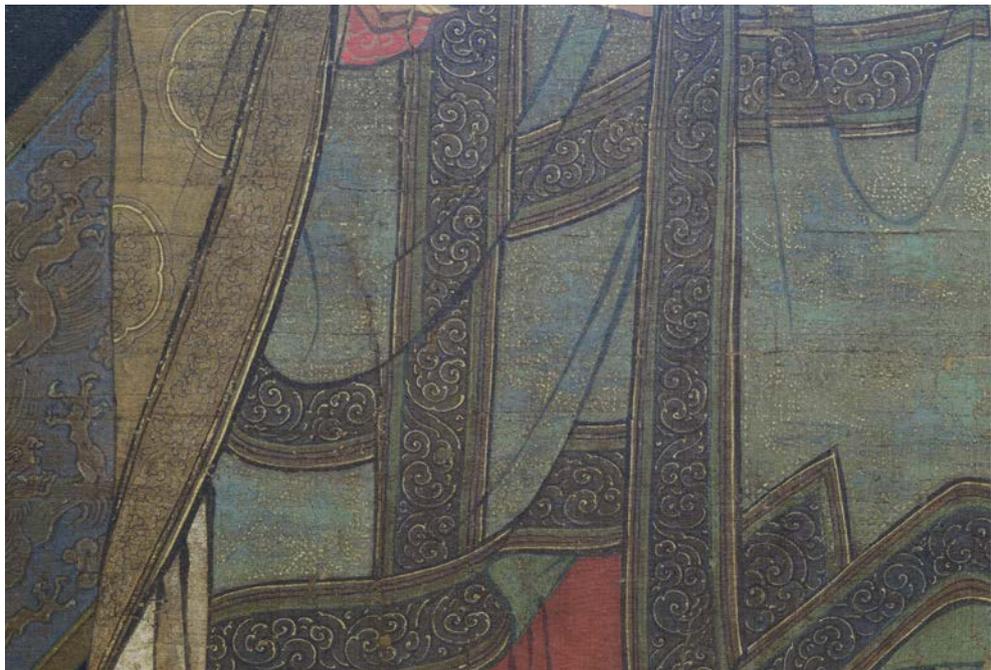


写真6 ディテール（修理後）〔斜光写真〕

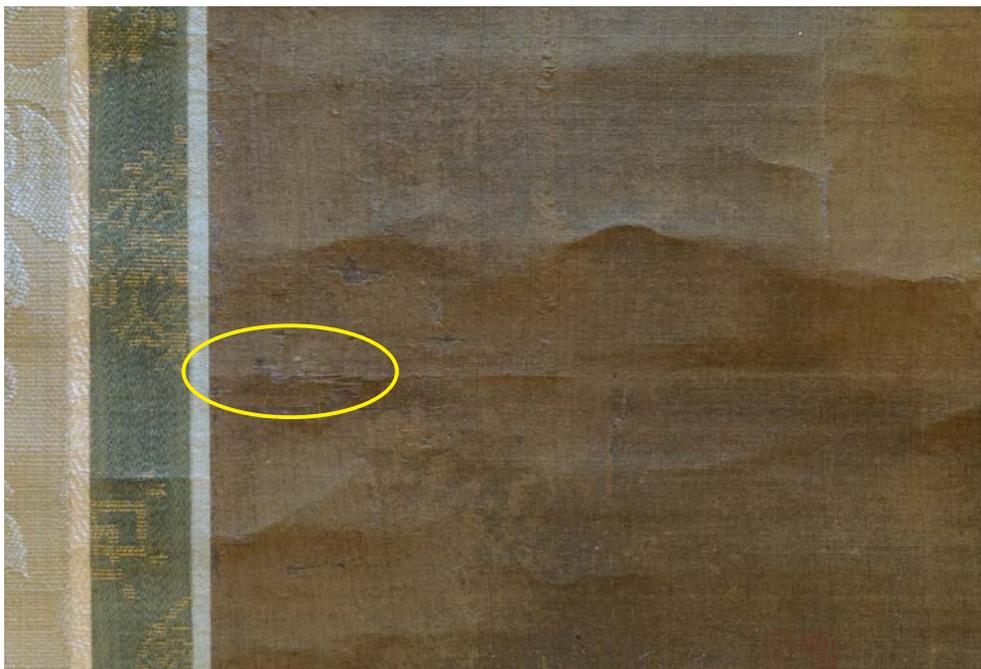


写真7 ディテール（修理前）〔斜光写真〕
欠失箇所の小口は、本紙料絹と旧肌裏紙の間で糊浮きが生じている。



写真8 ディテール（修理後）〔斜光写真〕



写真9 ディテール（修理前）
本紙料絹には欠失が生じている。

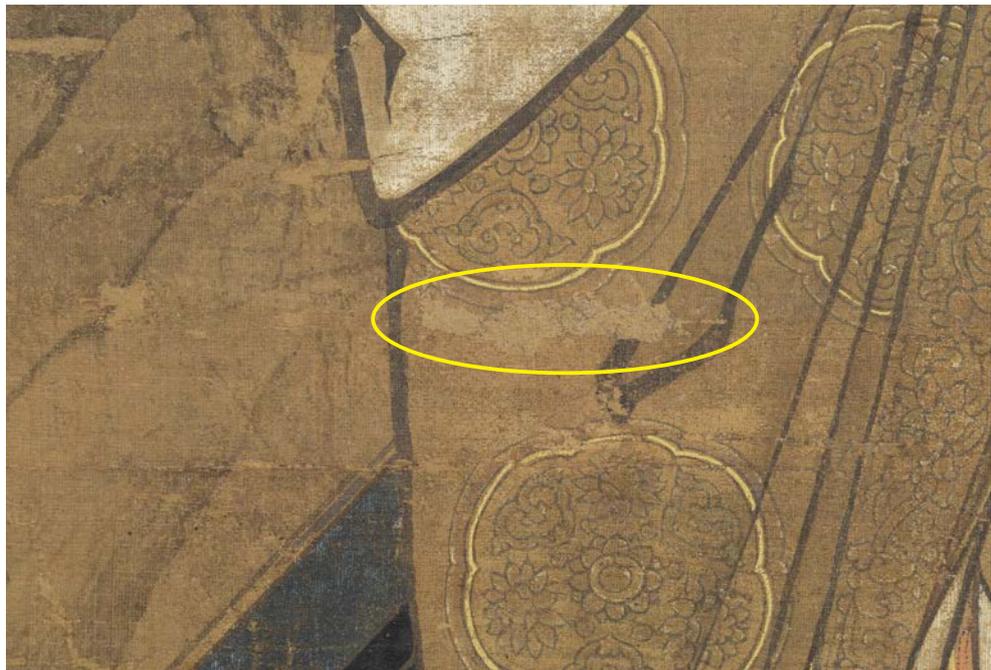


写真10 ディテール（修理後）
欠失箇所には本紙料絹と同じ組成の電子線劣化絹を用いて補修を施した。

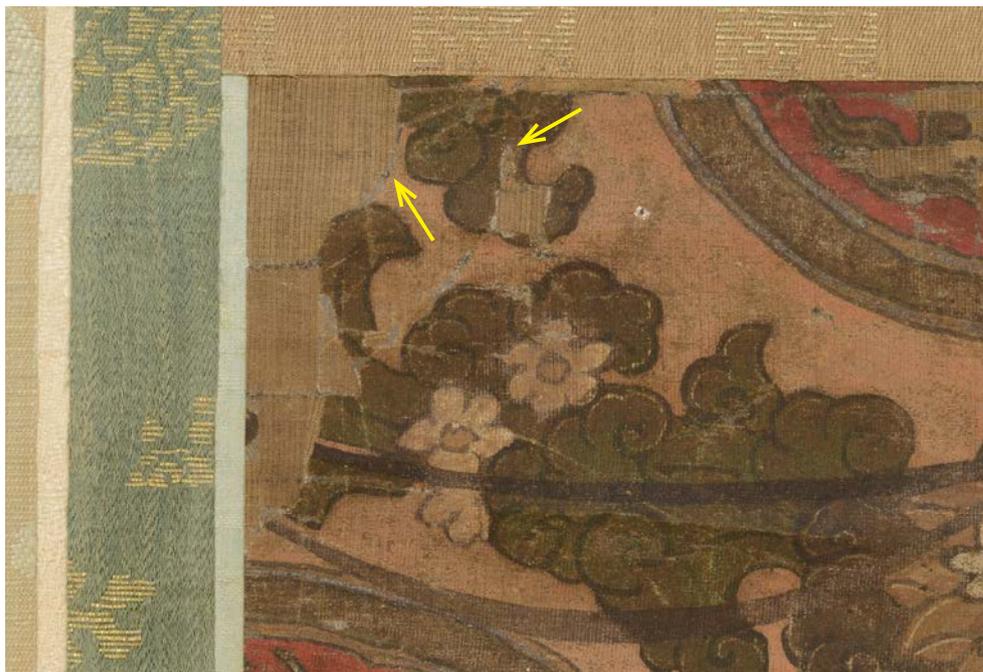


写真11 ディテール（修理前）
過去の修理により補絹が施されている。
欠矢箇所のに合わせた補絹ではないため、隙間が生じている。

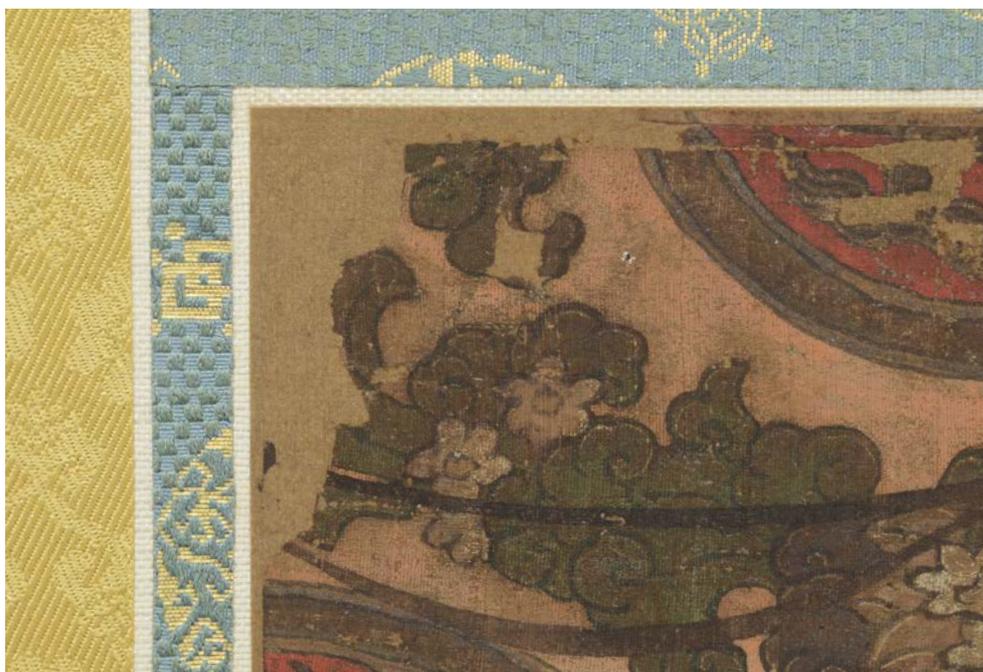


写真12 ディテール（修理後）



写真 13 デイテール（修理前）
旧補修には描き起こし、本紙にまで及ぶ補彩が施されている。



写真 14 デイテール（修理後）
線等を補う描き起こしのある補修網は残し、それ以外の補修網は全て除去した。

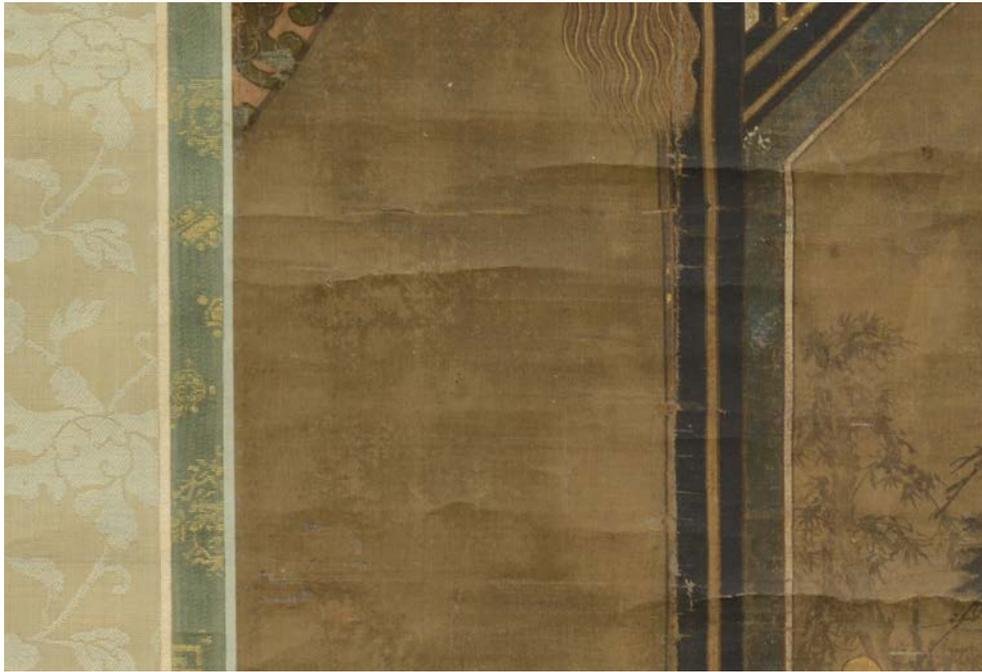


写真 15 ディテール（修理前）
本紙背景部分には表現と異なる黒色の斑点が見られる。

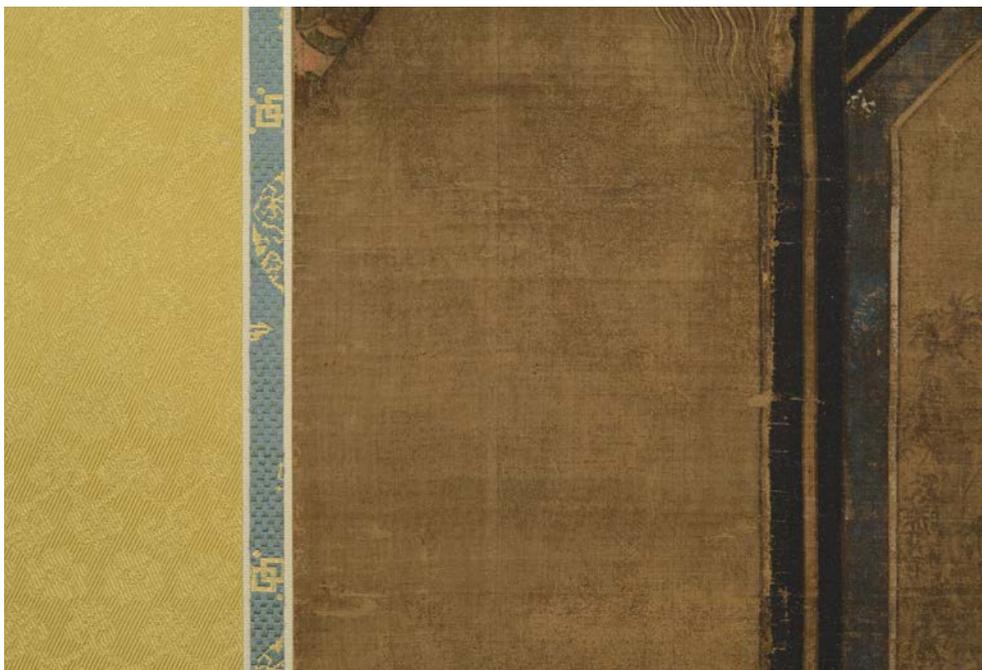


写真 16 ディテール（修理後）



写真 17 ディテール（修理前）
表装裂は下軸の根本部分で亀裂が生じている。



写真 18 ディテール（修理後）
表装裂は新調した。



写真 19 ディテール（修理前）
表装裂は虫損による欠失が生じている。



写真 20 ディテール（修理後）
表装裂全て新調した。



写真21 デイテール（修理前）
総裏紙が変色している。



写真 22 ディテール（修理後）
総裏紙や上巻絹は新調した。

六、修理方針

今回の修理では、旧肌裏紙を全て除去し、本紙料絹と同じ組成の電子線劣化絹による補絹を施す。さらに、肌裏紙を新調し、新たな支持体を作る等の根本修理を行い、本紙を安定した状態にすることを基本方針とする。

【本紙】

1. 本紙に付着した汚れを除去するため、本紙を吸取紙（バージンパルプ紙）の上に乗せ、濾過水（弊社にては水道水をオルガノ製ポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、水道水中の細かなゴミや鉄分、塩素分を除去した水）を噴霧し、汚れを吸取紙に吸収させる方法にてクリーニングを行う。
2. 膠着力の低下した絵具層に膠水溶液を筆にて塗布含浸させ強化する。
3. 本紙の旧肌裏紙を全て除去する。
4. 本紙の欠失箇所には本紙料絹と同じ組成の電子線劣化絹による補絹を施す。
5. 折れが発生している箇所や今後、折れの発生する恐れのある箇所に楮紙と新糊を用いて、折れ伏せを施す。
6. 補絹を施した箇所に、本紙基調色の補彩を施す。

【表装】

1. 表装裂は全て新調する。
2. 軸首は再使用し、新調した上下軸・啄木・吊金物等を取り付け、仏表具装に仕立てる。

【保存】

1. 桐太巻添軸一本を新調し本紙を太く巻き、羽二重の包裂に包み、新調した桐屋郎箱一合に納入する。
旧保存箱は、新調した中性紙保存箱に新調した保存箱と並べて納入する。（参考…特記事項2）

七、修理工程

1. 調査、記録 (写真 23)

写真撮影等を行い、修理前の損傷状況、本紙料絹の組成等の調査、記録を行った。

2. 解体 (写真 24)

掛軸装を解体し、旧肌裏紙以外の旧裏打紙を全て除去した。

3. クリーニング前剥落止 (写真 25)

剥落の恐れのある絵具層に対して一〜三%の膠水溶液を調整し、筆にて塗布含浸させて十分に乾燥させた。

4. クリーニング (写真 26)

本紙を吸収紙(バージンパルプ紙)の上に乗せて、濾過水を本紙表面に噴霧し、汚れを吸収紙に吸収させる方法でクリーニングを行った。



写真 25 クリーニング前剥落止



写真 23 修理前調査、記録



写真 26 クリーニング



写真 24 解体

5. クリーニング後剥落止 (写真 27)

剥落の恐れのある絵具層に対して一〜三%の膠水溶液を調整し、筆にて塗布含浸させて強化し、十分に乾燥させた。

6. 表補絹 (写真 28)

本紙料絹が欠失し、肌裏紙に裏彩色が付着している箇所には電子線劣化絹を用いて補絹を施した。

7. 表打 (写真 29)

養生紙と常温布海苔抽出液を用いて、本紙に表打ちを施した。

8. 旧肌裏紙・旧補絹除去 (写真 30)

乾式肌上法により旧肌裏紙を全て除去した。

旧補修絹は所有者と協議を行い、線等を補う等の描き起こしのある補修絹は残し、それ以外の補修絹を全て除去した。



写真 29 表打



写真 27 クリーニング後剥落止



写真 30 旧補修絹の除去



写真 28 表補絹

9. 補修 (写真 31)

本紙の欠失箇所には本紙料絹と同じ組成の電子線劣化絹を用いて補絹を施した。

10. 肌裏打・裏打二回目 (写真 32)

表打ちを除去し、本紙の色調に合わせて染色した薄美濃紙と小麦澱粉糊(新糊)を用いて肌裏打ちを行った。
さらに、色調を調整するため染色した薄美濃紙と新糊を用いて二回目の裏打ちを行った。

11. 増裏打 (写真 33)

美栖紙と新糊を一〇年間冷暗所にて保管した糊(古糊)を用いて増裏打ちを行った。

12. 表装裂地準備 (写真 34)

表装裂は全て新調し、薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを行い、美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行った。



写真 33 増裏打



写真 31 補修



写真 34 表装裂地調整



写真 32 肌裏打

13. 折れ伏せ入れ (写真 35)

折れの発生していた箇所および、今後折れが発生する恐れのある箇所にて二〜三mmの楮紙の帯と新糊を用いて、折れ伏せを施した。

14. 付け廻し (写真 36)

本紙と表装裂地を仏表具の形に付け廻しした。

15. 中裏打 (写真 37)

美栖紙と古糊を用いて中裏打ちを行った。

16. 総裏打 (写真 38)

宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行った。



写真 35 折れ伏せ入れ



写真 37 中裏打



写真 36 付け廻し



写真 38 総裏打

17. 仮張 (写真 39)

仮張し、十分に乾燥させる。

18. 補彩 (写真 40)

新たに補絹を施した箇所、本紙基調色の補彩を施す。

19. 仕上 (写真 41)

軸首は元のを再使用し、新調した八双、軸木、啄木等を取り付け、掛軸装に仕立てる。

20. 記録 (写真 42)

今回の修理に関する記録、写真撮影を行う。



写真 39 仮張



写真 41 仕上



写真 40 補彩



写真 42 記録

21. 保存

桐太巻添軸を新調し、修理の完了した本紙を太く巻き、羽二重の包裂に包み新調した桐屋郎箱に納めた。

また、総裏紙の墨書きは裏打ちを施し、表題のある旧上巻紙は畳紙に包み、付属の鑑定書と共に新調した桐屋郎箱の底に納めた。

さらに、新調した保存箱と旧箱は新調した中性紙保存箱に納めた。

22. 報告書

今回の修理に関する修理報告書を作成し、修理を完了した。

八. 特記事項

1. 旧肌裏紙の打ち分け (写真 43・44)

今回の修理において旧肌裏紙のうちお顔部分は明るい色調の肌裏紙、それ以外の場所では暗い色調の肌裏紙を用いて裏打ちが施されていることが判った。



写真 43 旧肌裏紙の打ち分け (本紙裏面・ディテール)

表打の工程後、本紙裏面から旧肌裏紙を記録した。

旧肌裏紙のうちお顔部分は明るい色調の肌裏紙、それ以外の部分は暗い色調の肌裏紙が用いられていた。



写真 43 旧肌裏紙の打ち分け（本紙裏面・全図）

2. 墨書

① 旧総裏紙 (写真 45)

旧総裏紙には墨書が確認できた。
今回の修理では、旧総裏紙を取り外し、裏打ちを施し畳紙に包み、新調した桐屋郎箱の底に納めた。

【墨書】

「延寶五年丙巳閏極月廿二日
石川若狭守源惣良公表具寄進之」

② 箱書 (写真 46・47)

旧保存箱には墨書が確認できた。

【墨書】

蓋表 「聖徳太子
弘川寺」
蓋裏 「
弘川寺 (朱印)
御表具師中尾宗吉造」
箱内底 「弘川寺 (朱印)」

③ 旧上巻絹 (写真 48)

旧上巻絹には墨書が確認できた。
今回の修理では、上巻を取り外し、裏打ちを施し畳紙に包み、新調した桐屋郎箱の底に納めた。

【墨書】

旧上巻絹には墨書が確認できた。
「
聖徳太子
弘川寺」

④ 軸首 (写真 49)

軸首の内側には墨書が確認できた。

【墨書】

「情」

写真47・2 墨書（旧保存箱・箱裏）拡大写真



写真47・1 墨書（旧保存箱・箱裏および箱内底）



写真46 墨書（旧保存箱・箱蓋）



写真45 墨書（旧総裏紙）



写真47・3 墨書（旧保存箱・箱内底）拡大写真





写真 49 墨書（軸首内側）

写真 48 墨書（旧上巻絹）



全
图
写
真

弘川寺様ご所蔵 聖徳太子童形像 損傷図面色分け一覧

	赤色	料絹欠失箇所(旧肌裏紙が露出している箇所)
	黄色	料絹欠失箇所(裏彩色が露出している箇所)
	桃色	旧補修絹が補填されている箇所(補筆なし)
	橙色	旧補修絹が補填されている箇所(補筆あり)
	赤色	料絹の小口、亀裂、旧補修絹との境界
	青色	料絹の上に直接重なっている箇所



全図写真 1 損傷図面 (修理前)



全図写真2 表具全図（修理前）



全図写真3 表具全図（修理後）



全図写真 4 本紙全図（修理前）〔斜光写真〕



全図写真5 本紙全図（修理後）〔斜光写真〕

